

地方創生特別委員会 県外行政調査

1 調査日 平成27年11月5日（木）～6日（金）

2 調査の概要

11月5日（木）

（1）新潟県議会（新潟県新潟市）

調査事項：地方創生および人口減少対策に関する取り組みについて
地場産業の振興に関する取り組みについて
新潟県優れたものづくり条例について

新潟県は、総人口が平成9年の249万人をピークに減少しており、社会の活力や地域の機能が低下していくことの懸念から、平成25年6月に策定された県の最上位計画「新潟県「夢おこし政策プラン」」では、人口減少対策を主眼に置き、「将来に希望の持てる魅力ある新潟県の実現～住んでみたい新潟、行ってみたい新潟～」を基本理念とした施策の展開が示され、本年10月に策定する「新潟県人口ビジョン」および「新潟県創生総合戦略」においても、同プランの基本理念が踏襲されているところである。特に、定住促進に関する施策では、「新潟県U・Iターンコンシェルジュ」事業、「新潟県U・Iターンサポーターズクラブ」事業など、U・Iターン希望者への就職支援や生活情報の提供について、きめ細やかで総合的な支援が図られている。



また、新潟県は、機械、金属加工、生活関連産業などの製造業が盛んな地域でもあるが、熟練技能者の高齢化に伴い、後継者の育成と確保が課題となっており、平成23年3月には、議員提案により「新潟県優れたものづくり条例」が制定され、ものづくりの技能および技術の継承について促進が図られている。

このことから、本県の地方創生および人口減少対策の参考とするため、また、本委員会が検討している地場産業の振興に関する条例案の参考とするため、新潟県を訪問し、各施策や条例の概要、成果、課題等について調査を行った。

11月6日（金）

（2）三条市議会（新潟県三条市）

調査事項：多極分散型のまちづくりについて

地場産業の振興に関する取り組みについて

三条市は、平成17年5月に、三条市、栄町、下田(しただ)村の3市町村が合併した市であるが、それぞれの地域がこれまで築き上げてきた魅力を守り、維持する「多極分散型」のまちづくりに取り組んでいる。特に、豊かな自然に恵まれるが人口減少が進む「下田(しただ)地区」と、かつてはまちの顔として伝統と文化を育んできたが高齢化が目立つ「まちなか」の2地区については、その衰退が三条市全体の持続可能性に影響を及ぼすものとして、モデル地区に設定され、「生産の営み」「生活の営み」「コミュニティ機能の回復」のための事業が展開されている。



また、三条市は、「金物のまち」として全国に知られ、金属加工業を中心とした地場産業が盛んな地域であるが、満足できる所得の確保、熟練技能者の高齢化による技術の継承等が課題とされており、価格決定力を確保するための「コト・ミチ人材の活用」事業、ものづくり産業の基盤強化、新規鍛冶人材育成事業などの事業を展開することにより、世界に誇るものづくりの維持・継承が図られている。

このことから、本県の地方創生および人口減少対策の参考とするため、また、本委員会が検討している地場産業の振興に関する条例案の参考とするため、三条市を訪問し、各施策の概要、成果、課題等について調査を行った。